



## 保護者が子供の学校に求めるものとは？

- すべての参加国の保護者は、子供の学校を選ぶ際に学業的な成功を重視する。しかし多くの場合、保護者は学校の安全性や環境、学校の評判をより考慮する。
- 学業的な成功が非常に重要だと考えている保護者の子は、それが重要でないと考えている保護者の子供より数学的リテラシーの得点が46点高かった。

“正しい”学校は、子供の学業的・社会的・精神的な技能を育成し、多様な同級生と将来の友達を集め、子供がその後進む仕事の世界への準備を助けるものである。よって多くの保護者が、子供が通う学校に対して意見を述べる権利があり、学校を選ぶことに時間と費用をかける準備があるのだ。家族や友達、近所の人との会話、インターネット上の評価やランキングの閲覧から、学校見学や、時には引っ越しまで、保護者は子供を可能な限り最良の学校へ通わせるために手を尽くすことをいとわない。

PISA調査によって多くの学校が生徒の獲得を競い合っていることが分かっている。そのため学校側もより魅力的な選択肢の一つになれるよう、保護者が何を求めているかを知りたいと考えている。総じて教育システムにとっても保護者のしこうに関する情報は極めて重要だ。その情報は、教育システムが家族の要望に応え、学校への保護者の関与を促し、教師・生徒・保護者が同じ目標に向かって進んでいることを確実にすることの助けとなる。

### ある基準に関心がある保護者は、その他のほとんどの基準にも関心を示す傾向にある

PISA2012年調査では、11の国・地域の生徒が家庭に質問紙を持ち帰り、保護者が回答した。とりわけ、保護者は子供の学校を選ぶ際に重要だと思う基準は何かを尋ねられた。保護者は、主に学校の質、経済的な制約、学校が掲げる教育理念や使命、家から学校までの地理的な距離に関する11の基準に対して、「重要ではない」から「非常に重要」までの重要度を選び回答した。

その結果、ある基準に関心がある保護者はそれ以外のすべての基準にも関心を示すという傾向がある一方で、どの基準にも「重要ではない」と回答した保護者はそれ以外のすべての基準についても重要だと考えない傾向にあることがわかった。例えば、学校

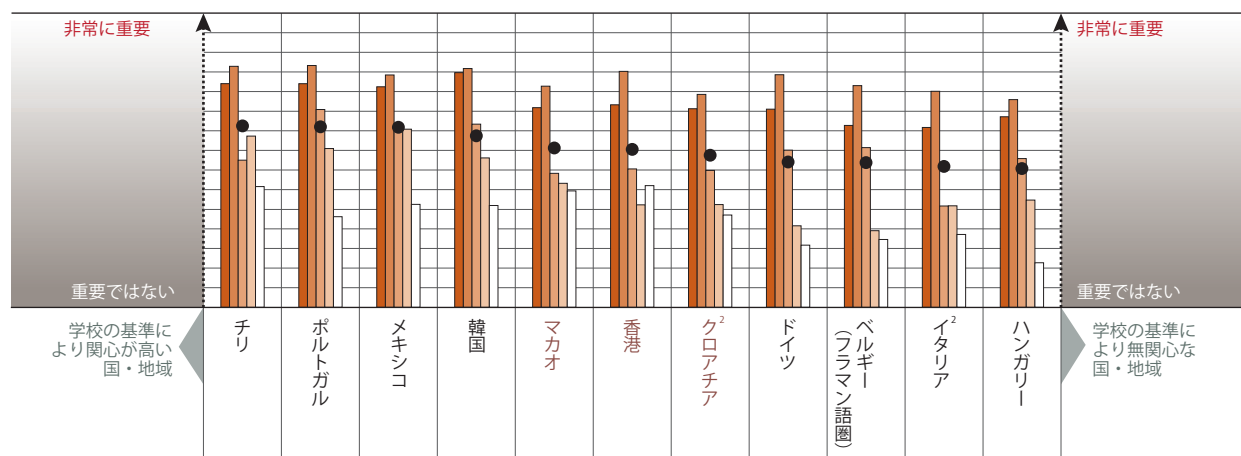
の評判が非常に重要だと考える保護者は、それが重要だと考えない保護者と比べると、約6倍学業的な成功が非常に重要だと考えており、家から学校までの距離及び学校の宗教理念については3倍、経済的な制約については2倍重視する傾向にある。調査に参加した11の国・地域のうち、チリ、メキシコ、ポルトガルは平均で、11の基準全てにおいて最も高い重要度を示した。

## 理想的な学校には多くの要因がある

保護者が学校を選ぶ際に重要だと考える基準がいくつかある中で、学業的な成功とその他の学校の質についての基準が最優先されることは圧倒的に明らかである。学校の評判、快適な環境と安全性という、明らかに学校の質と関係する三つの質問への回答を平均すると、経済的な制約、家から学校までの距離、学校の理念や使命といった要素に比べて、より重視していることがわかる。

学校の質はすべての国・地域の保護者にとって重要


- 学校の質：学業的な成功
- その他の学校の質に関する条件：評判、快適な環境と安全性
- 家から学校までの距離
- 経済的な条件：低額費用と経済的な援助
- 学校の理念・使命：宗教理念と教育的なアプローチ
- 学校の基準の平均指標



1. 「学校の特徴の平均」指標は、学校を選択する際の基準についての11の基準に対する保護者の回答の平均値。クロアチアは「特定の教授法」について、イタリアは「経済的な援助」についての情報を含まない。

2. クロアチアの学校の方針に関する情報は宗教理念のみを含む。イタリアの経済的な条件に関する情報は低額の費用のみを含む。「学校の特徴の平均」指標の高い順に左から国・地域を並べている。

出典：OECD, PISA 2009 Database

StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888932957498>

興味深いことに、多くの保護者が学業的な成功より快適な環境と学校の評判を気にしているという結果も得られた。保護者たちは、学校の評判と快適で安全な環境ほどは学業的な成功を重視していない。ベルギーを除いて、保護者にとって、すべての学校制度の中で学校の評判や快適な環境ははるかに重要な要素である。学校を選ぶ際に多くの保護者が安全性を最も重視するという結果は、学校の内外でのいじめや暴力への懸念が広がっていることの表れかもしれない。

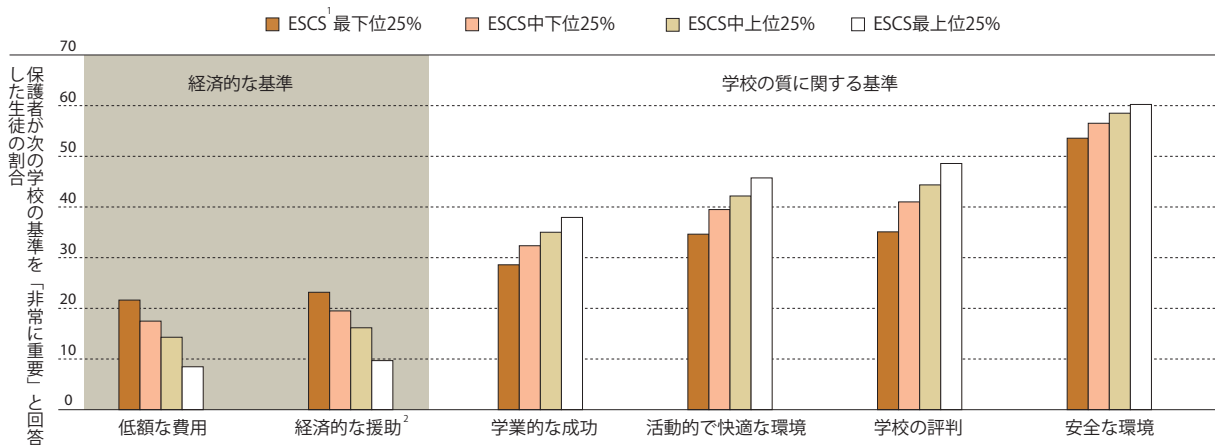


家族が学業的な成功より質を考慮することが明らかになるように、なぜ学校選択を促す方針がよりよい学習成果の提供を必ずしも必要としないのかについて、保護者のしこから読み取れるかもしれない。家からの学校の距離も保護者にとって重要なポイントであり、経済的な条件と学校の方針がそれに続く。この順位は国・地域を通じてほぼ一定であった。例外として、香港では経済的な条件より学校の方針を、チリでは家から学校の距離より経済的な条件を重視し、イタリアでは家から学校の距離と経済的な制限を同等に考慮するという結果が出ている。

## 経済状態が問題となる場合、学校の質の重要度は下がり、生徒の能力は劣る

ほとんどの保護者が、子供を最良の学校へ通わせたいと思っているが、誰もが学校の質だけを考慮して費用を負担できる訳ではない。2012年PISA調査では社会経済的に恵まれた保護者と比べて、社会経済的に恵まれない保護者は子供の学校を選ぶ際に、経済的な条件をより重視するという結果となった。またそれは多くの場合、学校の質に注目した項目を軽視することにつながる。例えば保護者への質問を行った11の国・地域全体で、経済的に恵まれない保護者と恵まれた保護者を比べると学校の評判が「非常に重要」と答えた割合が平均して16点差がある。また学校環境の質や安全性、学校の学業的な成功といったその他の基準についても、これら二つの保護者グループの差異は注目値する。

恵まれない状況にある保護者は、大抵の場合、経済的な条件と学校の質のどちらかを選択しなければならない



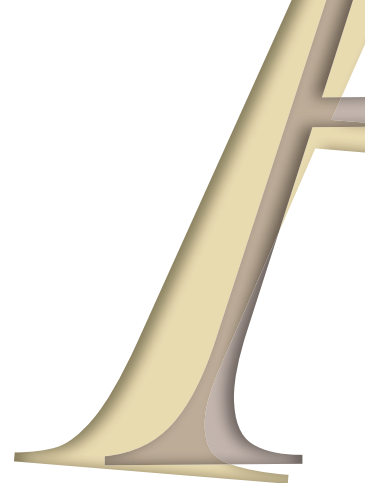
注：結果は保護者への質問を実施した11の国・地域全体の平均値。  
 1. ESCS：PISA調査における「生徒の社会経済文化的背景」指標の略  
 2. 「経済的な援助」はイタリアに適用されない。  
 出典：OECD, PISA 2012 Database:  
 StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932957498>

残念ながら、この影響を最も受けるのは生徒たちである。保護者への質問を行った11の国・地域全体を平均すると、学業的な成功を「非常に重要」と考える保護者の子供は、それが「重要でない」と考える保護者の子供より、数学的リテラシーで46点上回っている。また生徒の社会経済的背景を考慮すると、この得点差は32点まで減少するが、依然その差異は1学年分に相当する。経済的な条件が「重要でない」と答えた保護者の子供と比べて、それが「非常に重要」と答えた保護者の子供は、平均して得点が低かった。



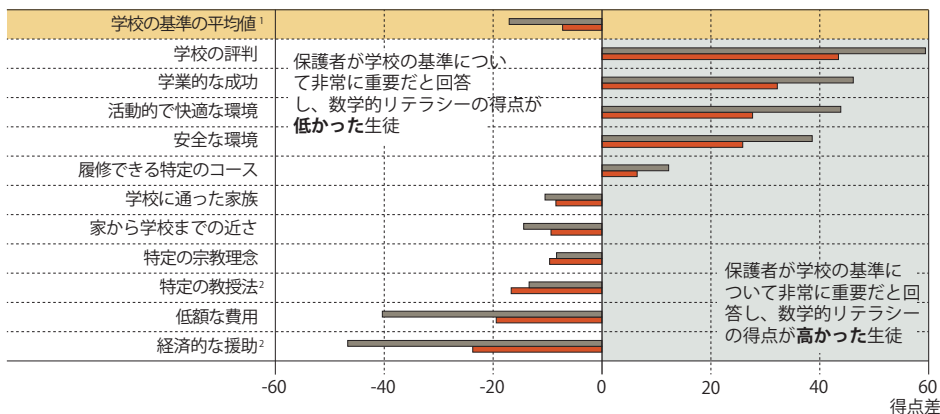
# PISA

IN FOCUS



学校の質が保護者にとって非常に重要な場合、彼らの子供の学力は高くなる傾向にある  
保護者の学校の基準への重要度の変化と、数学的リテラシーの得点差の関係  
（「重要ではない」と「非常に重要」を比較）

- 数学的リテラシーの得点差
- 社会経済文化的背景指標を考慮した後の数学的リテラシーの数学的得点差



注：全ての得点差は統計的に優位である。結果は保護者への質問を実施した11の国・地域全体の平均値。  
 1. 「学校の基準の平均値」は、学校を選択する際の基準についての11の基準に対する保護者の回答の平均値である。クロアチアは「特定の教授法」について、イタリアは「経済的な援助」についての情報を含まない。  
 2. 「特定の教授法」はクロアチアに適用されない。「経済的な援助」はイタリアに適用されない。  
 社会経済文化的背景指標を考慮した後の数学的リテラシーの得点差が大きい順に上から学校の基準を並べている。  
 出典：OECD, PISA 2012 Database.

**結論：ほとんどの保護者は自身の子供の教育について熟慮している。しかし保護者に学校の選択肢が与えられたとき、全ての子供が平等にその恩恵を受けているだろうか？もし学校選択の最終結果の大部分が貧富の差によって分類されるなら、学校制度は総じて滅びるだろう。保護者が経済的またはその他の理由によって学業的な成長を犠牲にするような事態に陥ることのない環境が、政策立案者によって確保されて初めて、すべての子供が学校選択の潜在的利益を享受できる。**

本稿に関するお問合せ先

担当： Alfonso Echazarra (Alfonso.Echazarra@oecd.org)

出典： OECD (2013), *PISA 2012 Results: What Makes Schools Successful? (Volume IV) Resources, Policies and Practices*, PISA, OECD Publishing, Paris.

OECD (2014), "When is competition between schools beneficial?" *PISA in Focus*, no. 42, OECD Publishing, Paris.

参考サイト

[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

[www.oecd.org/pisa/infocus](http://www.oecd.org/pisa/infocus)

[Education Indicators in Focus](#)

[Teaching in Focus](#)

次回テーマ：

過去10年間で学校はどのように変わったか？

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。

Photo credits: © khoa vu/Flickr/Getty Images © Shutterstock/Kzenon © Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and the arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.